

～プログラム～

1. 五十嵐 滋 (Ten) 横山 美恵 (Pf)

魔王 Erlkönig シューベルト Shubert (Op1, D328) [詩] ゲーテ
————— “白鳥の歌” Schwanengesang より —————
海辺にて Am Meer (Op72-12, D957) [詩] ハイネ
漁師の娘 Das Fischermädchen (Op72-10, D957) “ ”
シューベルト Shubert

2. 仲田 ちよ子 (Sop) 水村 香代子 (Pf)

浜辺の歌 Come walk along the shore 成田為三 T. Narita [詩] 林古溪
からたちの花 Hardy orange blossoms 山田耕筰 K. Yamada [詩] 北原白秋
————— オペラ “ジャンニ・スキッキ” Gianni Schicchi より —————
ラウレッタのアリア (Aria di Lauretta) :
「私のお父さん」 “O mio babbino caro” プッチーニ Puccini

3. 梁取 美智雄 (Bar) 門脇 郁香里 (Pf)

ラルゴ Largo (Ombra mai fù) ヘンデル Handel [訳詩] 堀内敬三
長崎の鐘 The Nagasaki bell 古関裕而 Y. Koseki [詩] サトウハチロー
アムール河の波 Amur waves 民謡～ロシア合唱曲
明石潤祐(編曲) J. Akasi (ar.) [詩] 合唱団白樺

4. 和田 知子 (Sop) クワバラ 香織 (Pf)

野ばら Heidenröslein シューベルト Shubert [詩] ゲーテ
————— 劇付随音楽 “ペール・ギュント” Peer Gynt より —————
ソルヴェイグの歌 Solveigs Sang グリーグ Grieg
みそさざい (“美しい四月が”) La Capinera (The Wren)
ジュリアス・ベネディクト J. Benedict

5. 鈴木 勝英 (Bar) 佐藤 琴絵 (Pf)

————— 愛唱歌 My favorite songs より —————

6. フルートアンサンブル19 (招待演奏)

平木 初枝 (Fl) 高島 則子 (Fl/Picc) 馬淵 淳子 (Alto fl) 海老澤 良子 (Fl/Bass fl)

—————「小組曲」 Petite Suite より—————

小舟にて En Bateau (Andantino) クロード・ドビュッシー Debussy

ハバネラ形式の小品 Piece en Forme de Habanera モーリス・ラヴェル Ravel

————— 組曲「くるみ割り人形」 The Nutcracker (Casse-Noisette) Suite より—————

① ロシアの踊り Danse Russe (Trepak)

② 中国の踊り Danse Chinoise

③ あし笛の踊り Danse des Mirlitons

チャイコフスキー Tchaikovsky

～休憩～

7. 岡野 雅代 (Sop) 横山 美恵 (Pf)

—————歌曲集「沙羅」 Sara より—————

丹沢 Tanzawa

あづまやの..... Azumaya no (At a bower)

沙羅 Sara (Sara flowers)

鴉 Karasu (Crow)

行々子 Gyogyouji (Reed warbler)

信時潔 K. Nobutoki [詩] 清水重道

(他)

8. 岡田 美奈子 (Sop) 小幡谷 彩女 (Cl) 石橋 博子 (Pf)

—————オペラ「皇帝ティトゥスの慈悲」 La clemenza di Tito より—————

ヴィテッリア(Vitellia)のレツィタティーヴォとアリア(Recitativo & Aria) :

「さあ、その時が来たわ ヴィテッリア」～「花の美しいかすがいを編もうと」

..... “Ecco il punto oh Vitellia” ～ “Non piu di fiori”

モーツァルト Mozart (Kv621)

9. 海老澤 里帆 (Fl) 近藤 裕子 (Pf)

フルートのためのコンチェルティーノ Concertino, Op. 107

セシル・シャミンナーデ C. Chaminade (Op107)

10. 池田 由紀子 (Sop) 藤代 周也 (Bar) 門脇 郁香里 (Pf)

鶯はバラに魅せられ Пленившись розой, соловей (Nightingale and Rose)
リムスキー・コルサコフ Римский-Корсаков (Rimsky-Korsakov) [池田]
—————オペラ “運命の力” La Forza del Destino より—————
「神よ、平和を与えたまえ」 “Pace pace mio dio” ヴェルディ Verdi [池田]
—————オペラ “メリーウィドウ” Merry Widow より二重唱—————
「とざした唇に」(メリーウィドウワルツ) “Lippen schweigen” (Merry Widow Waltz)
レハール Lehar [池田、藤代]

11. 横山 和美 (Sop) 横山 美恵 (Pf)

—————オペラ “ナクソス島のアリアドネ” Ariadne auf Naxos より—————
「偉大なる王女さま」 “Großmächtige Prinzessin”
リヒャルト・シュトラウス R. Strauss

12. フルートアンサンブル 19 (招待演奏)

平木 初枝 (Fl) 高畠 則子 (Fl / Picc) 馬淵 淳子 (Alto fl) 海老澤 良子 (Bass fl)

————— “カルメン組曲” Carmen Suite より—————

- ① 前奏曲 (闘牛士) Prelude (Les Toréadors)
- ② ハバネラ Habanera
- ③ アルカラの竜騎兵 Les dragons d'Alcala
- ④ 間奏曲 Entr'acte
- ⑤ アラゴネーゼ Aragonaise
- ⑥ ジプシーの歌 Gypsy Song

ビゼー Bizet

～曲目解説（演奏順）～

〔第1部〕

1. 〔五十嵐〕

- **魔王** 馬の早駆けの蹄の音を模したピアノの三連符に乗って、語り手、馬に乗った父親、その手に抱かれて居る病んだ息子、魔王の4人を歌い分ける有名なバラード。はじめ花や黄金の衣装で、次に娘たちの歌と踊りで冥界に誘う魔王の甘い誘惑、脅える子供、宥める父親。でも家に着いたときには、父親の手の中で子供は……死んでいた。
- **海辺にて** 最後の夕映えの中で、海が遠くで輝いて居る。君と二人で長い時間黙って漁師の小屋の前で坐って居た。霧が掛かりはじめ鴟がときどき飛んで居た。君の目から涙がこぼれ、私は思わずその白い手に落ちた涙を啜った。その日以来私は窶（やつ）れてしまった。君は私にその涙で毒を盛ったのだ。
- **漁師の娘** ねえお嬢さん、君は荒々しい海が怖くないのだから、僕のこと怖がらないでついておいでよ。僕の心も海と同じで、嵐もあれば、引き潮も上げ潮もあるけれども、奥底には美しい真珠が一杯有るんだから。

（日本語ウィキペディアに依ると、シューベルトはハイネの皮肉を的確に表現していないという批判もあるが、むしろシューベルトはハイネの原詩を旋律によつて的確に表現しているという見方ができ、フィッシャー＝ディースカウは「この詩のもつ優美な重苦しさは、シチリアーノでこれ以上軽やかには表現できないであろう」と評したという。この記述は、珍しいことに英語ウィキペディアよりも深い。）

2. 〔仲田〕

- **浜辺の歌** なぎさに打ち寄せる波の様子を8分の6のリズムにのせた叙情的であり、朝に夕に、遠くと昔をしのぶのどかな作品。
- **からたちの花** 白秋が小学校時代、いつも通っていた道のからたちの垣根への思い出を歌ったもの。
- **「私のお父さん」** イタリア、フィレンツェが舞台で、結婚に反対する父親に娘が切々と恋する気持ちを訴える歌。

3. 〔梁取〕

- **ラルゴ** ヘンデルの作曲したオペラ『セルセ』の第1幕第1場の中の叙情的、旋律的な独唱曲。下降および上昇旋律を組み合わせた、伸びやかな明るい旋律線を持ち、美しい小品として愛され、しばしば演奏されます。曲は、緑の木蔭、つまりオアシスを表わしていて、中学校の放課後、この曲が校内を静かに流れ、今日も授業が終了したかと安堵感を抱いたことを思い出しています。

- **長崎の鐘** この曲は、歌謡曲として歌われていましたが、“クラシック歌謡”で、クラシックの旋律が流れています。長崎の鐘は、永井隆が執筆した随筆で、長崎医科大学助教授だった永井が原爆爆心地に近い同大学で被爆した時の状況と、重症を負いながらも被爆者の救護活動に当たる様子を記録したもの。「長崎の鐘」とは、廃墟となった浦上天主堂の煉瓦の中から、壊れずに掘り出された鐘のこと。
- **アムール河の波** アムール川はモンゴル、ロシア、中国の国境を流れる河。このアムール川は栄養が豊富であり、サケ類をはじめ豊かな水産資源に恵まれ、これによりよい漁場になっています。この曲は合唱曲として、赤軍合唱団・合唱団白樺ほか、色々な合唱団により、歌われています。

4. [和田]

- **野ばら** 詩には野に咲く美しい薔薇を見た少年が、薔薇の抵抗空しく、薔薇を折ってしまうまでが描かれています。ゲーテが 21 歳の時、18 歳の牧師の娘フリーデリケと恋に落ちます。しかし、ゲーテは何も言わずに彼女から去ってしまいます。「野ばら」はこの別れをもとに書かれた詩です。

若く美しい女性の心を傷つけた自責の念が込められているようですが、シューベルトのメロディーは、明るく、憂いがありません。この詩に曲をつけた当時のシューベルトも 18 歳。若さゆえの素直さ、明るさこそが、残酷さにつながっているのかも知れません。

- **ソルヴェイグの歌** 『ペール・ギュント』はグリーグと同じノルウェーの劇作家イプセンが作った戯曲。イプセンの依頼によりグリーグが劇音楽を作曲しました。自由奔放な主人公ペール・ギュントが旅に出て、放蕩を重ね、年老いてソルヴェイグのもとへ戻り命尽きるまでを描いた物語です。

ソルヴェイグは放浪の旅に出たペール・ギュントを待ち続けます。冬はゆき、春が過ぎ、夏も去って、月日は経つ。私は待っている、かつてあなたに誓ったように。どこへ行っても神の励ましが、慰めがありますように、あなたが戻るまで、私はここで待っている...と。

- **みそさざい（「麗しい四月が」）** ミソサザイとは体長 10 センチ程の小さな鳥のことです。春先に、高音のとてもよく響く美しい声でさえざります。この曲は、明るい春の歓びに満ちたイタリア歌曲です。4 月に窓辺に戻って来る君を見れば、私も思わず歌いたくなくなってしまう、歌おう、愛を、青春を！草花も秘密の言葉で君に挨拶する、君が近くにいれば、私も歌いたくなくなってしまう、歌おう、愛を、青春を！と歌っています。

5. [鈴木]（舞台でお話しします。）

6. [フルートアンサンブル19]

- **小舟にてー「小組曲」より** 小組曲は、ドビュッシーが1889年に書いたピアノ連弾曲ですが、アンリ・ビュッセールによるオーケストラ編曲版でも知られています。波間にゆったりと漂う舟歌が聴かれます。
- **ハバネラ形式の小品** 原曲は、ヴォカリーズ（母韻歌唱）とピアノのために、1907年に書かれました。元キューバ起源のゆったりとした舞曲のリズムに対し、メロディーは表情豊かです。
- **組曲「くるみ割り人形」より**
 - ① **ロシアの踊り** ロシア・チョコレートの精が腰を落とし、足を前に突き出したコザックの踊り「トレパック」を踊る陽気な舞曲。
 - ② **中国の踊り** 中国産お茶の精のおどけた踊りです。フルートとピッコロが、舞い上がって飛び跳ね回る様子を見せています。
 - ③ **あし笛の踊り** 紙でできたおもちゃの笛（ミルリトン）が、三人で踊るように、フルート三重奏がポルカのようなリズムで舞います。

[第2部]

7. [岡野]

- **「沙羅」** 作曲の信時潔（のぶとき・きよし、1887-1965）は、キリスト教徒の家庭で讃美歌やオルガンに親しんで育ちました。東京音楽学校（現在の東京芸術大学）でチェロと作曲を学んだ後、同校の助教授、教授を務めました。ドイツへ留学したこともあり、作風はドイツの古典派の影響を受けて簡素で重厚な雰囲気なものとなっています。また、山田耕筰の曲のような都会的洗練とは対照的な、明治人らしい武骨な気概が感じられません。

この曲は、東京音楽学校の同僚であった国文学者・清水重道の詩に作曲し、1935（昭和10）年に完成しました。全8曲の中から今日は4曲を歌います。参考「クラシック名曲アルバム」

8. [岡田]

- **「さあ その時が来たわ、ヴィテッリア」～「花の美しいかすがいを編もうと」** 神聖ローマ帝国レオポルド2世のボヘミア王としての戴冠式で上演されたオペラ。前皇帝の娘ヴィテッリアは皇帝ティトの妃になることを望んでいるが、皇帝が他の女性を選んだと聞き、皇帝の暗殺を企てる。皇帝の親友セストはヴィテッリアへの愛から暗殺を引き受ける。計画は失敗し、セストは捕えられるが、ヴィテッリアをかばったまま死のうとしている。そのことを知ったヴィテッリアは、皇妃の夢をあきらめ自分の罪を告白することに決め、その揺れる想いを切々と歌うアリア。

9. [海老澤]

- **Concertino Op.107** この曲は C. Chaminade(シャミナーデ 1857-1944)が作曲。ハバネラといえばカルメンをすぐさまに思い描くが、元はキューバの首都ハバナが起源の舞踊である。8分音符2個と8分3連音符の形は他の作曲家も使用している、それこそビゼー作曲カルメンのハバネラである。この曲が醸し出す優しいメロディーはまるで彼女の性格をそのまま表現しているかのようである。

彼女はアマチュア音楽家の子で、フランスで生涯を過ごした。当時は、女性が作曲家になることは認められていなかったため、最初は個人レッスンを受けた。今では世界中で彼女の曲が演奏されている。

10. [池田]

- 鶯は薔薇に魅せられ—東方のロマンス プーシキンに倣いて 鶯は薔薇に恋をして昼に夜に、薔薇の上で歌い続けた。しかし薔薇はただ黙って歌を聞いているだけで冷たいそぶり。若者もリラを弾いて若い乙女のために歌うが、可愛い乙女も無関心。彼が誰のために歌うのか、そして何故彼の歌がこんなにも悲しげなのか。

- “運命の力、(第4幕より)「神よ、平和を与えたまえ」 平和を 平和を わが神よ！残酷な不幸に私は捕らえられ長い間苦しみ続けています。神様がお創りになった気高く美しいあの方を私は愛しました。しかし運命が、罪が私たちを引き裂きました。アルバーロを愛していることは天に書かれてある事なのに、もう二度とお会いすることはないでしょう。ああ神様、私を死なせて魂の安らぎをお与えください。もしこの聖なる地を穢すものがあれば災いあれ 災いあれ

[18世紀スペイン アルバーロとレオノーラは愛し合い、駆け落ちをしようとするがそれを阻止しにきたレオノーラの父を拳銃の暴発により誤って死なせてしまう。その敵討ちに兄弟達に追いかけられ、全員が死んでしまうという物語。]

- オペレッタ “メリーウイドウ、(第3幕より)二重唱「とざした唇に」(メリーウイドウワルツ) 1905年にウィーンで初演された。パリの社交界で色々な人の思惑に阻まれたり、素直になれなかったりしながらも、かつての恋人同士のダニロと大金持ちの未亡人ハンナは、祖国のためと自分のために結婚を決意する。二人の甘いワルツの場面。

11. [横山]

- **ナクソス島のアリアドネ** は、ホーフマンスタール台本、R. シュトラウス作曲のオペラである。このオペラは前半の「前芝居」と後半の「オペラ」という2つの部分に分けられており、前半では悲劇オペラ(ナクソス島のアリアドネ)を上演する前の楽屋裏の混乱が描かれている。前半の混乱の結果、後半「オペラ」は、悲劇オペラと悲劇オペラの後に上演される喜劇オペラが同時進行で上演される展開となっている。

本アリア「偉大なる王女様- Großmächtige Prinzessin」は、後半のオペラの部分で恋人のテセウスに捨てられ嘆き悲しむアリアドネを元気付けるため、喜劇役者のツェルビネッタによって歌われる。コロラトゥーラの超絶技巧や華々しい高音の跳躍など、聴くも

のを別世界へと誘う魅力の凝縮された長大なアリアである。

12. [フルートアンサンブル19]

● “カルメン組曲”より

- ① **前奏曲（闘牛士）** 最もスペイン的なアイドルで、勇壮な闘牛士の入場を表した音楽です。第二幕で歌われる曲ですが、最初に前奏曲として演奏します。
- ② **ハバネラ** 第一幕でカルメンがドン・ホセを誘惑して歌う（恋は野の小鳥のようにきまま…）アリアで、妖艶・奔放なジプシー女カルメンの気質を良く表しています。
- ③ **アルカラの竜騎兵** ドン・ホセが、カルメンに逢いに行くときに口ずさむ歌で、素朴な民謡調の旋律が流れます。
- ④ **間奏曲** ハープの伴奏でフルートが、のどかな牧歌調の旋律が郷愁をそそる。もともと“アルルの女”のために書かれたものです。
- ⑤ **アラゴネーゼ** 「アラゴン（東北スペイン）風の音楽」という意味ですが、アンダルシアの民謡ポロの形をとっていて、闘牛が始まるセビリャの町の賑やかな情景を表している。
- ⑥ **ジプシーの歌** リリアス・バスティアの酒場で、カルメンがジプシーの女達を従えて踊り歌い、次第に陽気な気分を高めて行きます。

～演奏者プロフィール（演奏順）～

〔第1部〕

1. 五十嵐 滋 Shigeru IGARASHI (テノール)

声楽を高校時代竹前ケイ氏（故）に、30年前から現在まで横山和彦氏に、大学～大学院時代にアコーディオンを渡辺弘氏（故）に師事する傍ら、音楽理論を東京藝大旧通信課程で学ぶ。助手時代東大丁友会合唱団、京大助教授時代紫明合唱団（京都）所属。つくばでは近代詩曲の会を主宰し、その合唱団の“銀の笛”は松本紀久雄氏（故）の下で10年間ノバホールで定期演奏会を成功させた。横浜博つくば市デーで「忘れな草」を歌う。ルネッサンス専門の“もくせい会”と男声合唱団“ΚΟΣΜΟΣ”（ともに創設メンバー）でも長年歌う。

つくば市文化祭音楽会の実行委員を多年努め、堀部一壽氏と協力して現行の二日開催制を実現させた他、つくば市カピオ・ホール設計市民ワーク主査、ムジカフェスタ・ディ・つくばの主催団体であるつくば音楽団体交流協議会の会則起草（その後会長も）、3回に亘って筑波大学市民交流音楽会を同大学会館で開催する等、つくば市と近隣地域の音楽活動の交流発展に努めている。

筑波大学名誉教授、専門は情報数理、人工知能論、計算機音楽特にピアノ自動演奏。世界知識人 Who's Who 殿堂メンバー、合衆国文化協議会平和賞受賞。著書『演奏を科学する—人工知能が創る音楽創らない音楽』（ヤマハ・ミュージック・メディア社刊）の他、音楽情報学の国際的論文多数。

● 横山 美恵 Yoshie YOKOYAMA (ピアノ)

武蔵野音楽大学器楽科ピアノ専攻卒業。松崎伶子、塚越淑子、両氏に師事。結婚後、夫和彦と共にウィーンに留学、ワルター・モーア教授の薫陶を受ける。帰国後は子育て、後進指導の傍ら、夫和彦、娘和美の伴奏者として数多くの演奏会に出演。現在コールブリランテ伴奏者。

2. 仲田 ちよ子 Chiyoko NAKATA (ソプラノ)

中学時代より現在まで、合唱団で歌い続けています。（現在、土浦市民合唱団・つくばフィルハーモニーに所属。）声楽は30代後半より本格的に勉強を始め、若林（鈴木）啓代先生、島田佳子先生、現在は佐藤あけみ先生に指導を受けています。2015年よりムジカフェスタ・ディ・つくばの主催団体であるつくば音楽団体交流協議会役員を務めています。

3. 梁取 美智雄 Michio YANADARI (バリトン)

中学校時代はコーラス部員で県大会に出場、日立製作所中央研究所時代はコーラス部

員で産業音楽祭に参加し優秀賞。30歳頃より音楽から遠ざかり定年を迎えました。定年後、産総研に省エネの支援指導で入所したのを機に、産総研音楽倶楽部に入部し、ムジカフェスタに参加しました。9年前から声楽独唱を南みつ子先生に師事、水戸市の県民文化センターで新春声楽コンサートに8回ほど出場、ノバホールでつくば市民文化祭音楽会の独唱部門にも参加しました。

声楽のほかクラシックギターを愛好し、最近ではビラロボスの「前奏曲」などの練習もしています。

● 門脇 郁香里 Yukari KADOWAKI (ピアノ)

国立音楽大学教育音楽科卒業。ピアノを田中はる子、原口歌子、バーバラ・マッケンジーの各氏に師事。現在は鈴木ゆみ氏に師事。声楽を田口孝子、瀬川武の各氏に師事。ビクター音楽産業(ビクターレコード)本社にて、新譜案内書の作成に携わる。現在は茨城県南地域を中心に合唱、声楽の伴奏者として広く活動している。

4. 和田 知子 Tomoko WADA (ソプラノ)

母がクラシック音楽好きであったことから、幼少の頃よりクラシック音楽に親しむ。高校時代にそれまで師事していたピアノ教師より声楽の手ほどきを受け音大への進学を勧められたが、同じ芸術でもデザイン、建築へと進路を取り、一時音楽から離れた。社会へ出ても音楽への情熱は冷めることなく、声楽の個人レッスンで音楽を再開。2006年には筑西市誕生記念オペラ「こうもり」でアデーレ役を演じ好評を博す。さらに2007年には明野ミュージカル「ハロー、ドーリー」でマロイ役を演じ高い評価を得た。

品のある舞台姿によく響き透き通る歌声で、イタリア、フランスのオペラアリア等を中心に歌っている。

● クワバラ 香織 Kaori KUWABARA (ピアノ)

神戸山手女子高等学校音楽科及び大阪音楽大学ピアノ科卒業。現在は、演奏活動及び後進の指導に当たる。『つくばで第九』では初回より連続して練習ピアニストとして関わる。様々なジャンルを弾きこなす「キラリと光るプレイヤー」を目指すべく日夜研鑽を積むが...なかなかこれが難しい！

5. 鈴木 勝英 Katsuhide SUZUKI (バリトン)

定年後の楽しみの一つとしてほぼ40年ぶりに再開した「歌うこと」。それから早10年、そして古希という人生の節目となりました。今は、ゴスペルサークル「ELG」、「ローズオペラ」、「茨城県民オペラ協会」そして「TKC混声合唱団」と歌うことの難しさを益々感じながらの歌三昧と野良仕事の日々。

そしていつかは、ノバホールで一人で歌ってみたいという夢、それが今日叶えられません。娘のピアノ伴奏で！！

- 佐藤 琴絵 Kotoe SATO (ピアノ)
臨床心理士として活躍中。ピアノは趣味で。

6. フルートアンサンブル 19 (12)

[第2部]

7. 岡野 雅代 Masayo OKANO (ソプラノ)

田村省平、柴田喜代子、森敏孝、河野美年子(故)、児井恵各氏に、現在は瀬山詠子氏に師事。活水女子短期大学音楽科声楽専攻卒。東京・横浜・川崎・守谷など各地でリサイタル・チャリティコンサート活動を行う。現在は、筑波メディカルセンター・緩和ケア病棟での定期的なコンサートをはじめ、横浜市立脳血管医療センター、神奈川県立がんセンターや守谷の保育園でボランティアコンサートを行う。(公益社団法人)シャンティ国際ボランティア会の会員として、ラオス・カンボジア・ミャンマー難民キャンプなどを訪れて歌を通じて子供たちと交流する。

『音夢の会』を主催し、これまでに茨城県南及び横浜・川崎などで32回のコンサートを企画、出演する。2012年フィンランドにてヨーロッパスズキ協会認定 Suzuki Voice Teacherの資格を取得。スズキメソードピアノ科指導者。

- 横山 美恵 Yoshie YOKOYAMA (ピアノ) (1)

- 近藤 裕子 Hiroko KONDO (ピアノ)

国立音楽大学卒業、東京音楽大学大学院修了。1993年、つくば市に移り住み、音楽教育に従事すると共に、アンサンブルでの演奏活動を続けている。

8. 岡田 美奈子 Minako OKADA (ソプラノ)

広島市出身。愛知県立芸術大学音楽学部声楽専攻卒業。同大学定期演奏会、卒業演奏会に出演。ウィーンにて発声法と伴奏法を学ぶ。広島にてソプラノリサイタル、デュオリサイタルを開催。今年5月、つくばにてコンサート『モーツァルト&ボヘミアの作曲家を廻って』(はるもにえ主催)に出演。声楽を故小島琢磨、戸山俊樹、H.レッセル＝マイダン、中田淳子の各氏に師事。

ヴォーカルアカデミーつくば、アンサンブル『音の玉手箱』会員。

- 小幡谷 彩女 Ayame OBATAYA (クラリネット)

神戸市出身。大阪音楽大学音楽学部器楽学科卒業。クラリネットを丸川正明、小川哲生、川井夏香の各氏に師事。現在つくば市に在住。アンサンブル『音の玉手箱』を結成し演奏活動を行っている。また、誰もが楽しめるクラシックコンサート『みゅーじっく

♪ぽっと』を企画、開催している。

● 石橋 博子 Hiroko ISHIBASHI (ピアノ)

東京都立芸術高校(現東京都立総合芸術高校)を経て、武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。在学中は、辛島輝治、荒憲一、M.M.シュタインの各氏に師事。東京、大阪にてソロリサイタルを開催。現在は、つくば市、土浦市を中心に音楽活動を続ける。全日本ピアノ指導者協会正会員。ピティナピアノステップ SUN ステーション実行委員長。

9. 海老澤 里帆 Riho EBISAWA (フルート)

東邦音楽大学卒業、大石三郎、岩間丈正、中山早苗、門馬曜子に師事。フルートアンサンブルシリンクス、東邦音楽大学フルートオーケストラベルソナ、茨城笛の会に所属。演奏活動をする傍ら、ウインズ・ユークつくば店でフルート講師をしている。

● 近藤 裕子 Hiroko KONDO (ピアノ)

国立音楽大学卒業、東京音楽大学大学院修了。1993年、つくば市に移り住み、音楽教育に従事すると共に、アンサンブルでの演奏活動を続けている。

10. 池田 由紀子 Yukiko IKEDA (ソプラノ)

声楽を星洋二氏と濱田千枝子氏、堀部一寿氏に師事。茨城県芸術祭県民コンサートに5回出演。2010年には特賞受賞、2011年には賛助出演。2009年には国際芸術連盟主催の第6回東京声楽コンクールにて3位入賞。同年8月、同連盟主催のコンサート『エクセレントステージ in Tokyo』に出演。2015年度東京音楽大学大学院科目履修生。本年10月1日、水戸芸術館での『茨城の名手名歌手たち』コンサートに出演予定。

● 藤代 周也 Syuuya FUJISIRO (バリトン)

第19回波の会・日本歌曲コンクール奨励賞。茨城県民コンサート5回出演。日本歌曲やオペラを中心に活動中。波の会日本歌曲振興会所属。県民オペラ協会演奏者。

● 門脇 郁香里 Yukari KADOWAKI (ピアノ) (☎3)

11. 横山 和美 Kazumi YOKOYAMA (ソプラノ)

東京音楽大学声楽演奏家コース卒業。在学中明治安田クオリティオブライフ文化財団奨学生として研鑽を積む。第62回全日本学生音楽コンクール声楽部門全国大会高校の部第1位並びに横浜市民賞受賞。第69回全日本学生音楽コンクール声楽部門大学の部全国大会入選。現在東京芸術大学大学院修士課程オペラ専攻2年在学中。

● 横山 美恵 Yoshie YOKOYAMA (ピアノ) (☎1)

12. フルートアンサンブル19

各々音楽大学卒業後、演奏活動や後進の指導に従事し、更に研鑽を積むために、2007年第19期プロフェッショナルフルート指導者講習会に参加。そこで4人が出会い、講習会終了後に結成。19期生ということでフルートアンサンブル19と命名。近隣のコンサートホールや、教会、福祉・養護施設、発表会、つくばヤマハ等でのデモ演奏活動し、ジャンルを問わず、幅広い年齢層の方々から好評を頂いている。

- 海老澤 良子 Yoshiko EBISAWA (フルート・バスフルート)
ヤマハフルート教室講師。国立音楽大学卒業。フルートをスイスにて M. モイーズに師事。国内では、中川昌三、宮本明恭、植村泰一、菅原早苗各氏に師事。
- 高島 則子 Noriko TAKABATAKE (フルート・ピッコロ)
武蔵野音楽大学卒業。フルートを小出信也、佐野悦郎、A. アドリアン各氏に師事。
- 平木 初枝 Hatsue HIRAKI (フルート)
武蔵野音楽大学卒業。東京音楽大学大学院 研究科修了。フルートを菅原早苗、植村泰一、野口 龍各氏に師事。
- 馬淵 淳子 Junko MABUCHI (アルトフルート)
東京音楽大学卒業。同大学大学院 研究科修了。フルートを菅原早苗、植村泰一各氏に師事。

主催者御あいさつ

2016年8月21日

皆様 こんにちは

本日は、お暑い中、第四回の「ソロフェスタ」によるこそお出で下さいました。夏の日曜日の午後の一時、声楽と器楽のソロとアンサンブルをお楽しみください。

このソロフェスタは、20余年前から茨城県南地区の有力音楽団体が年一回一堂に会して行われている「ムジカフェスタ・ディ・つくば」†を主催しているつくば音楽団体交流協議会と、その姉妹団体であるつくばソロ連絡会‡とが協力して行っているものです。

今日は、プログラムをご覧になれば分かるように、ゲスト出演の「フルートアンサンブル19」の皆さんを筆頭に、これまでに劣らず御来聴の皆様にご誇れる出演者を揃えることが出来ました。ソロフェスタをノバホールで行うのは初めてですが、出演の皆さんのソロやアンサンブルが、この素晴らしいホールでさぞこれまで以上に美しく響くだろうと、私も心から楽しみにして居ります。皆様には、どうぞこの夏の午後を、ごゆるりとお堪能くださいますように。

ソロフェスタ・コンサート委員長
つくば音楽団体交流協議会前会長
つくばソロ連絡会代表

筑波大学名誉教授 五十嵐 滋

† **ムジカフェスタ・ディ・つくば**： 今年5月15日に第23回をノバホールで行ったムジカフェスタ・ディ・つくばの前身は1970年代半ばの筑波大学創設時から、同大学の学生会館がつくば地域（当時桜村が中心だった。）唯一の良好な音楽ホールだったため、地域の芸術文化活動の推進のために、大学が全経費を負担して開催していた「学園都市音楽会」である。1980年代後半に至ってノバホールが竣工し運営も軌道に乗ったため、1990年代初頭に、第50回を以って役割を果たしたとして終了することになった際、各演奏団体のメンバーとして学園都市音楽会に出演するだけでなく、実施について会館を助けていた筑波大学の教員・学生の有志を中心にして、地域で音楽活動を始めておられた堀部一壽氏等の音楽家の協力を得て発展的に継承されたのが「ムジカフェスタ」である。

学園都市音楽会には、こうした経緯と趣旨から当然のこととして地域の音楽専門家（いわゆるプロ）とアマチュア団体や愛好家が分け隔てなく混じっており、器楽、合唱、ソロの3部門に分かれて年3回開催されていた。つまり創設以来の理念として、プロ、アマや団体と個人や演奏ジャンルの垣根を超えた地域住民の音楽芸術の発表の場だった。「ムジカフェスタ」は、県南から更に一部県外都市の団体

までも加えて、この理念を承継し更に発展させたものである。ムジカフェスタ・ディ・つくば及びつくば音楽団体のホームページは、

<http://www.musicafesta.com/>

(「ソロフェスタ」のページと、同「公演の記録」もこのサイト上に掲載されている。)

‡ **つくばソロ連絡会**： 2010年に結成された旧称茨城県南ソロ連絡会を、2016年春に、参加者や活動地域を茨城県南に限定しない精神で改称し、発祥の地として「つくば」を冠することになった。ソロフェスタの実現と今日の成功に至るまで、実質的な活動を支えて来たグループ。